

ずっと一緒に生きていく家族を すべての子どもたちに

2022.4.3 養子の日 ～多様な家族のカタチを考える～

福岡市子ども家庭課子ども福祉係長 福井 充

「お前らのせいで俺は一匹狼」

記憶にない母親との別れ

家族がいないまま、長い施設での暮らし


退所後の孤立、ぶつけようのない怒り




11,092

家族と交流なし

40,375[※]



※ 里親・ファミリーホーム・乳児院・児童養護施設・児童心理治療施設・児童自立支援施設・自立援助ホームの入所児童数の合計(2018.2.1時点)
：厚生労働省「社会的養育の推進に向けて(令和4年3月31日)」p269



パーマネンシー Permanency

心理的親との永続的な関係の下での養育環境

意図と傾倒

家庭が続いていくことが意図されていて、家族が子どもに傾倒している

共通の未来

当然に共通の未来を想定し、家族との関係の継続性を提供している

所属感

子どもに法的地位が与えられて権利が守られ、所属感が促進されている

- 安全で妨げられない情緒的な結びつきと、将来への予測可能性
- 安定したアタッチメントの形成、アイデンティティの獲得
- 生涯にわたるウェルビーイング

児童福祉法

「家庭」養育優先原則の意味

民法・家事事件手続法

養子上限年齢・縁組手続の見直し

2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
495	616	624	711	693

約220所で
約400件

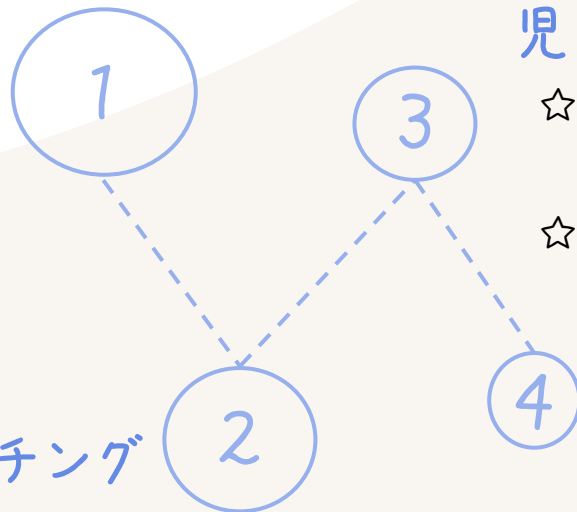
福岡市での取組みと課題

幅広い把握と判断

- ☆ パーマネンシー視点を父母に伝えて参画促進
- ☆ 家族交流状況などから特別養子縁組の必要性を定期的に再検討

諦めないマッチング

- ☆ 高年齢、障がいなど
- ☆ 実子のいる家庭、2人目の委託も
- ☆ 全国のあっせん機関との連携が課題



児相長申立ての活用

- ☆ 父または母の同意が得られていない事例でのチャレンジが進展
- ☆ 把握から成立までの短期化へ

縁組後の支援

- ☆ 里親支援専門相談員による自助グループの支援など
- ☆ 真実告知前後の支援や継続的な相談支援などが課題

若年妊娠、養育困難、災害、戦争…
どんな理由で家族と離れたとしても、
「ずっと一緒に生きていく家族」を
すべての子どもたちに。

(参考文献)

- * Emlen et al. (1977) Overcoming Barriers to Planning for Children in Foster Care
- * 福井充 (2021) 「パーマネンシー」橋本達昌・藤井美憲編著『社会的養育ソーシャルワークの道標』日本評論社
- * 福井充 (2021) 「パーマネンシー保障に向けた児童相談所の実践結果の検討 ～援助プロセスと退所統計の変化にみる成果と課題」ソーシャルワーク学会誌 第43号
- * 島山由佳子 (2015) 『子ども虐待在宅ケースの家族支援』明石書店
- * 厚生労働省子ども家庭局家庭福祉課「社会的養育の推進に向けて」(令和4年3月31日)
- * Pecora, P. J., Whittaker, J. K., Barth, R. P. et al. (2019) The Child Welfare Challenge: Policy, Practice, and Research Fourth Edition, Routledge